平成29年度
平山郁夫連続セミナー

アートオアシスin広島

「平山郁夫絵画の原点」をテーマとした
連続セミナーを開催いたします。
お気軽にご来場ください！

≪対　象≫一般

≪参加費≫500円（予約不要）

≪会　場≫広島県立美術館　地階講堂（地下1階）
〒730-0014　広島市中区上幟町2-22

≪問い合わせ先≫
・TEL0845-27-3800…(公財) 平山郁夫美術館
・TEL082-249-8385…(公財) ひろしま文化振興財団

≪アクセス≫
・市内路面電車・バス「縮景園前」下車約20m
・広島駅より約1Km、広島城より約400m

第1回

9月30日（土）13:30～15:00
シルクロードでの35年

1982年以来、中国新疆ウイグル自治区を150回以上訪問し、中国側と世界的文化遺産保護研究・人材育成・相互理解促進の三方面で約100項目を実施してきました。
体制も文化も考え方も異なる外国との国際協力では種々の困難が発生します。「大きな愛に境界はない」精神の下、乗り越えてきました。その地道な活動をパワーポイントで分かりやすく紹介します。

講師

小島 康誉（こじま やすたか）
（佛教大学内ニヤ遺跡学術研究機構代表、
新疆ウイグル自治区政府顧問、浄土宗僧侶）

1942年名古屋生まれ。24歳で宝石専門店を創業、上場企業に育て上げ、54歳で退任。88年佛教大学卒業。2006年から5年間、佛教大学客員教授を務めた。保存に尽力したキジル千仏洞は2014年「世界文化遺産」となり、ニヤ遺跡やダンダンウイリク遺跡調査では国宝級遺物多数を発掘した。また奨学金授与者は6,000人を超え、博物館建設など多くの活動を実践し続けている。編著に『念仏の道ヨチヨチと』『日中共同ニヤ遺跡学術調査報告書』『新疆世界文化遺産図鑑』『Kizil,Niya, and Dandanoilik』など。

第2回

10月7日（土）13:30～15:00
敦煌より見た東アジアの源流

敦煌は、古来、オアシス都市として人々の暮らしを支え、漢代以降には中国の西の玄関口として、また山岳信仰や仏教信仰の地として長く歴史の表舞台にありました。このような地であることから、敦煌には様々な時代の文物が重層的に残されています。そうした資料に見られる歴史というと、中国の一辺境地域にとどまることと思われるかもしれませんが、そうではありません。じつはその一部は中国の王朝から外に向けて発信された文化の粋であり、日本に伝わった文化との共通点も見られるのです。
講義では、日本文化の源流ともいえる中国の文化について、敦煌の出土資料を使ってわかりやすく紹介してみたいと思います。

講師

荒見 泰史（あらみ ひろし）
（広島大学大学院総合科学研究科教授、
広島大学敦煌学プロジェクト研究センター代表）

1965年東京生まれ。中国へ渡り復旦大学中国語言文学系博士課程を卒業。文学博士。その後、浙江大学、明海大学等の副教授、助教授を経て現職にいたる。専門は敦煌学、仏教文学、中国語学、東アジア埋蔵文献学。主な著書に『仏経文学研究論集』（復旦大学出版社、2004年）『敦煌変文写本的研究』（中華書局、2010年）、『敦煌講唱文学写本研究』（中華書局、2010年）などがある。他に中国語、英語を中心として著書、論文も多数。

【主催】平山郁夫セミナー委員会…広島県立美術館・（公財）平山郁夫美術館・（公財）ひろしま文化振興財団